



安佐大橋

太田川イカダ下り出発点

毎年7月末もしくは8月末の日曜日に、手造りイカダ数十艘が川下りするイベントが行われている。平成9年7月「第1回全日本イカダ下り参水人(サミット)」開催。



1700個以上のガラス製小玉、数個の滑石製小玉が出土。これらにはすべてひもを通すための穴があり、当時、人々の装身具であったと推定される。

●弘住遺跡

●弘住神社

●小田渡し跡

●大歳神社

●幾志山城跡



昔、応永年間(1394~1428)真言宗として開基したが天文2年(1533)浄土真宗に改宗した。

●教円寺

●東野渡し跡



●平野古墳・平野神社

平野古墳は1個の独立したドーム状の豪華な形をしており平野神社の御神体と見られる。

●狐城跡

●中小田古墳群

第一号古墳から吾作銘三角縁神獣鏡が出土したことで、4世紀後半に大和政権と直接関係をもつ政治的首長が存在したと考えられている。平成8年11月11日国の史跡に指定。

●小田定用水出口跡

●岩海の地蔵

●湯釜古墳

至広島市中心部

西願寺山墳墓群

特殊な埋葬形態で、河原石を大量に積み上げた堅穴式石室は独特なもので他に例の少ない貴重な遺跡



祭神は旧広島県史には「別雷神(わけいづちのかみ)」、郡中国郡志には「賀茂大明神」とある。造立年・由来等は、はっきりしないが、芸藩通志に「賀茂神社 明神社付同村にあり、楽音寺古神名帳に矢口明神あり、同社の内ならん歟」とある。矢口明神であるとすれば相当古いもの(鎌倉時代)と思われる。

●月野瀬神社

●教蓮寺

もとは真言宗、延徳3年(1491)浄土真宗に改宗し、寛永2年(1625)今の地に移転。

●新宮神社

慶長4年(1599)在地領主山縣彦左衛門就勝が勧請した神社といわれている。祭神は、大山祇命(おおやまのみこと)・大己貴命(おのおののみこと)である。



●草谷山崎薬師堂

●夜山の地蔵

落合村と矢口村の境、夜山の峰にあったが、いつの日か草谷山崎薬師の境内に移された。



●いぼ地蔵

いぼが治るといわれることからこの名がついた。



松笠山観音堂と巨樹群

観音堂は、寛文13年(1673)に大檀那として四代藩主浅野綱長などが建立している。棟札写には、「奉再興松笠山正観音尊像同一宇」とあるので、元もお堂があったと考えられる。現今のものは明治9年(1876)頃建立されたもので、文政年間には、福王寺預りになっていた(無住化)。なお、境内には観音鎮守として稻荷祠が勧請されている。樹齢数百年とされる巨樹がひとつの境内に生育している例は少なく、平成3年台風19号の被害を受け「観音杉」の名で親しまれていた大杉(幹囲4.85M)が倒れたのが惜しまれる。広島市指定天然記念物



口田地区

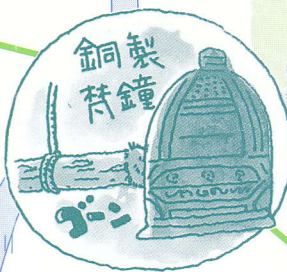
口田地区とは明治22年(1889年)市制・町村制施行により、矢口村と小田村が合併して口田村として発足した地域をいう。口田地区には縄文時代以前の遺跡・遺物は今までのところ発見されていない。弥生時代に至ってのものは、弘住遺跡・大明地遺跡など矢口・小田地区で発見され高陽地域の他地区にも同様の事例が数々と発見されている。矢口・小田地区には前記のほか弥生時代終末から古墳時代にかけての西願寺山墳墓群の他、国の史跡に指定された中小田古墳群に代表される様に数々の古墳を含む遺跡が発見されている。



湯釜古墳

落合地区

落合地区は諸木、末光、玖、岩上の4カ村で構成されていたが、明治22年下深川、中深川と共に、深川村として発足。明治28年落合村と深川村に分離。昭和30年口田、狩小川と共に高陽町となり、昭和48年に広島市に合併、今日に至る。山あいのわずかの平地は、落合川、諸木川、太田川の堆積土で耕地が開けたが、水害には悩まされ続けた。



尾和神社

陰地神社と同じく、1925年、亀崎神社に合祀し、尾和金比羅神社となる。

善徳寺

境内の鐘楼に「銅製の梵鐘」があり、珍しい鑄造技法と鐘胴に陰刻銘があるなど、大変貴重な作品とされ広島市重要文化財の指定を受けている。



明光寺薬師如来

八体の地藏

●金明鉞山跡

どうどう

実印の墨水のことで体を清め、伝えられている。

尾和舟宿跡

べんから工場



下深川駅



子安地藏

子育ての地藏といわれ左手に宝珠、右手に錫杖をもった美しい坐像である。



●亀崎神社

本神社は延暦15年(796)勧請と伝えられ、芸藩通史や国郡志に依れば、毛利氏との関係も深く、毎年(例祭)には毛利氏よりの代参があったようである。

●諏訪神社

武身名方神を祀る。

●八畳岩

●せいご岩

●ツ矢渡し跡

●真亀山神社

玖村の氏神。その昔、東國の金子氏が守護神として八幡神を祀ったことに始まるといわれる。

●恵下山・山手遺跡群

広島県史跡指定。弥生終末から古墳時代初頭にかけての住居跡の一部が復元されている。

●お祇園さん

●円正寺

天文20年(1551)順能が真宗に改宗し、円正寺の開基となった。

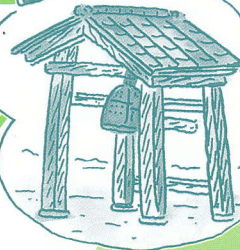
玖村駅

●忠平渡し跡

●大歳神社

●胡子神社

玖村は下駄の商人が多かったので商売繁盛のため進まれた。有志が神主となって祭典を行う。



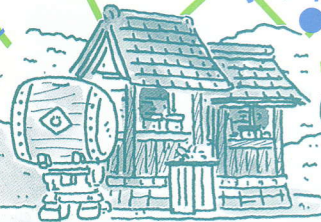
●岩上神社・岩上貝塚

岩上村の氏神。宮床田八幡宮・岩上貝塚は神社の裏山にあるが詳細は不明。

●岩上観音

●お祇園さん

●才の峠仏石



●吉備津神社

毎年、秋祭りの時には子供達による神楽が行われている。

●大歳神社

●猿宮さん

その昔、平家の落武者をさがらうておいでをして招いたといわれている。



●梨ヶ谷遺跡

弥生時代後期の遺跡で、地面を大きく掘り込んだ穴の中に河原石を積んで壁を作った堅穴式石室や住居跡等が見えられた。



高陽中央通り

高瀬大橋

↓次面へ続く

深川地区

地名については、高陽町史には「略、源平内乱期をくぐりぬけることにより、鎌倉殿御家人として自らの地位を安定させた土着領主らは、荘・郷という公式的表現でなく「深河田畠」「深河末次名田畠」という表現を好んで用い、この田畠についての歴史的な由緒を表現しているようにみえる。



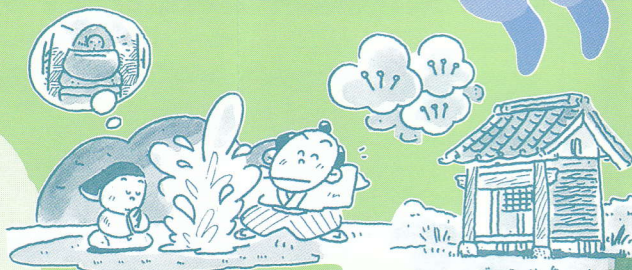
明光寺薬師如来

八体の地蔵

●金明鉞山跡

●どうどう河

薬師の盥水のみなもと、弘法大師がここで体を清め、薬師如来を刻まれたと伝えられている。

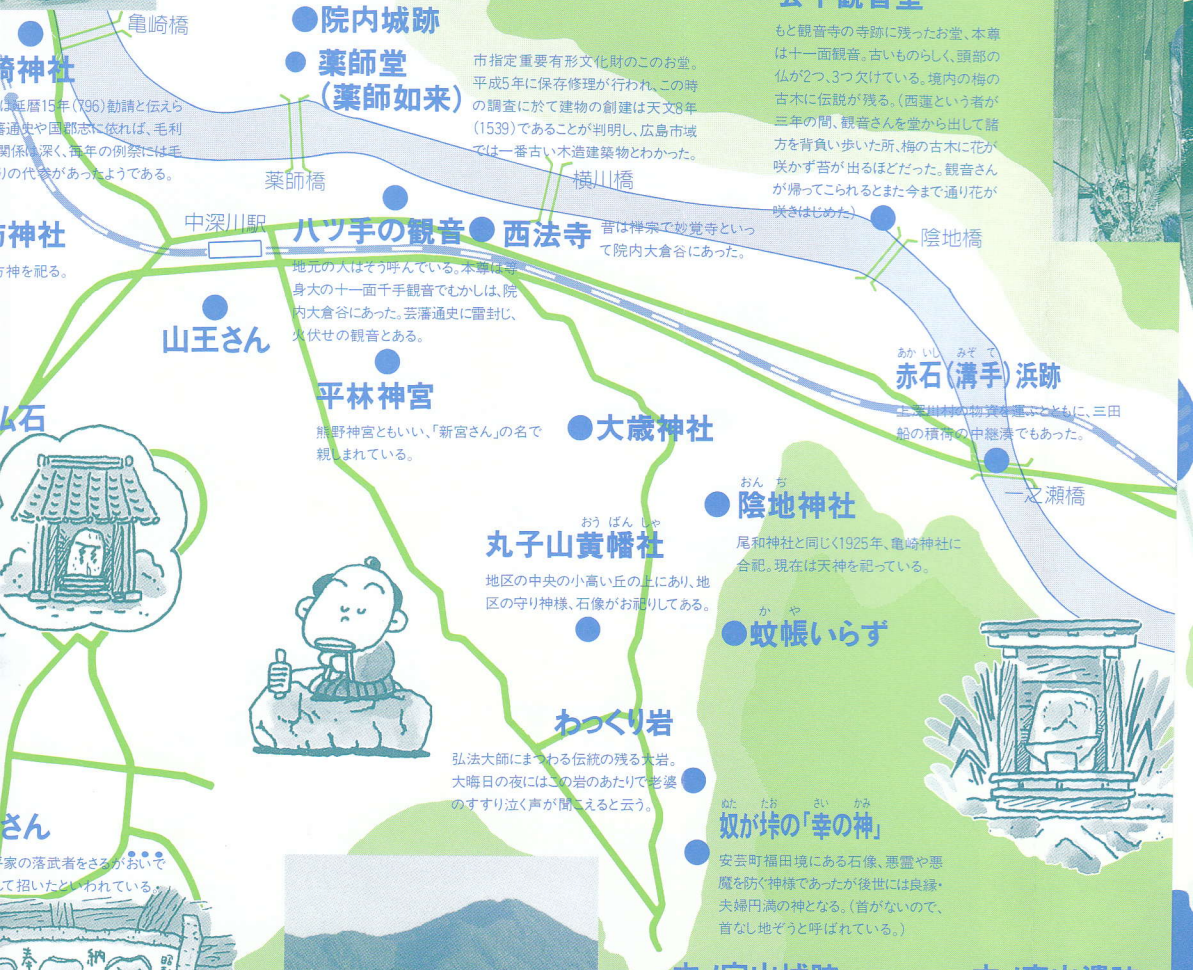


- 天神社
- 院内城跡
- 薬師堂 (薬師如来)

市指定重要有形文化財のこのお堂。平成5年に保存修理が行われ、この時の調査に於て建物の創建は天文8年(1539)であることが判明し、広島市域では一番古い木造建築物とわかった。

●会下観音堂

もと観音寺の寺跡に残ったお堂、本尊は十一面観音。古いものらしく、頭部の仏が2つ、3つ欠けている。境内の梅の古木に伝説が残る。(西運という者が三年の間、観音さんを堂から出して諸方を背負い歩いた所、梅の古木に花びらが咲かず苔が出るほどだった。観音さんが帰ってこれるとまた今まで通り花が咲きはじめた)



●天神社

延暦15年(796)勧請と伝えらる。普通史や国郡志に依れば、毛利関係は深く、毎年の例祭には毛利の代表があったようである。

●天神社

天神を祀る。

●山王さん

●ハツ手の観音 ●西法寺

地元の人はずっと呼んでいる。本尊は等身大の十一面千手観音で、もかしは、院内大倉谷にあった。芸藩通史に雷封じ、火伏せの観音とある。

●西法寺

昔は禅宗で妙覚寺として院内大倉谷にあった。

●平林神宮

熊野神宮ともいい、「新宮さん」の名で親しまれている。

●大歳神社

●丸子山黄幡社

地区の中央の小高い丘の上であり、地区の守り神様、石像がお祀りしてある。

●陰地神社

尾和神社と同じく1925年、亀崎神社に合祀。現在は天神を祀っている。

●蚊帳いらす

●わっくり岩

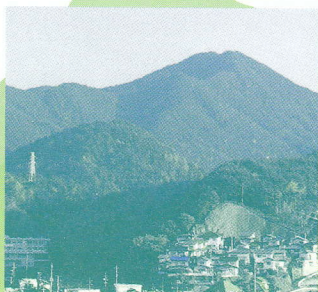
弘法大師にまつわる伝統の残る大岩。大晦日の夜にはこの岩のあたりで老婆のすすり泣く声聞こえると云う。

●奴が埜の「幸の神」

安芸町福田境にある石像、悪霊や悪魔を防ぐ神様であったが、後世には良縁・夫婦円満の神となる。(首がないので、首なし地ぞうと呼ばれている。)

●山王さん

山王家の落武者をさるがおいでして招いたといわれている。



●木ノ宗山城跡

小河原川と三篠川によって囲まれ、木の宗山山塊が独立した地形となっていて、川と山塊を利用した大規模な山城、古文書には吉川興経が築いたが入城せずに没落したとか、城主は奥西仲綱とも記している。

●木ノ宗山遺跡

明治24年(1891)、地元の人々の霊によって畿内文化圏の銅鐸と北九州圏の銅剣・銅矛が発見されたことより、かつて同文化圏の交わる地帯だったことが判明。出土品は国重要財に指定されている。

狩小川地区

狩小川地区とは、明治22年、狩留家、上深川、小河原の3か村を合併して創立された旧狩小川村地域のことである。狩留家は稲置・狩倉が設けられていた遺名といわれる。上深川は深河の上の方にあるところから、この名がつけられたといい、古文書には「布川」または「添川」とある。小河原は三篠川の大きな河原に対して、小さな河原であったところから名付けられたといわれている。



西八幡神社

元禄10年(1697)の再建であることが「棟札」により判明。室町時代の建築様式をいまに伝える。拝殿は檜の立木をそのまま柱に利用しているのが特徴。(広島市指定重要有形文化財)

中西の観音堂

印音寺跡にこの観音堂が建立されたようである。貞享2年(1685)に仏様が作られた記録が残されている。



志和林業師堂

享徳2年(1453)深川院内城主牛尾範光の建立。本尊業師如来は行基作と伝えられている。いろいろな額を込めて手水鉢に彫った蓋状穴は有名である。

東八幡神社

西八幡神社・湯坂山神社とともに、狩留家町の氏神。境内には立派なくろがねもちの木がある。慶安2年(1649)勧請

琴平山城跡

築城年代、城主とも不明。



順正寺

天文5年(1536)武田信玄の叔父武田重信がこの地に来て、古城平の麓に真言宗の草庵を作り、順正寺と号したと伝えられる。「袴垂」の石垣と呼ばれる立派な石垣があり、ここにはかつて古城の館跡があったといわれている。

虚空蔵さん(こくうんぞうさん)

ぼこらの付近は如何なるひでりでも水が無くすることはないとされている。神経痛に靈験あつたかな神様といわれ、信仰されている。

おんちゃくさん

春、大洪水の際、御神体が流れ着かれた。ここから「着権理」といふ。御神体は魚を持ち、釣りざおをもった珍しい座像である。

抱岩地藏

むかし抱岩の道は、中郡道の間道であったが、岩を抱えて通過しなければならぬ危険で、人跡も道であった。そのため足を滑らせて川に転落し、怪我をする者が絶えないため、地藏をまつり安全を祈願して伝えられる。



たたら跡

かなり古い時代に築かれ、その昔は鉄産業によってこの狩留家を賑わせていた。いまでも鉄滓(てつざい)が散らばっている。

湯坂山神社

拝殿の柱は、山から切り出したままの丸太の一本柱。奉納の絵馬も残っている。



吉川興経墓・千法師墓

吉川興経公は、毛利元就によって上深川に隠居させられていたが、天文19年(1550)、熊谷直直・天野隆直(忠房)と討たれ、ここに眠る。その時、興経公の御子「千法師」も乳母と共に討死したと伝えられる。

上深川遺跡

太田川流域の弥生後期の「標識」となる重要な壺やかめなどが折り重なって出土した。

正現寺

武田氏の真倉寺(時宗)を真宗に改宗して、「武田の真倉坊」といわれていた。天正6年(1577)に再興し、正現寺に改めたといわれる。

松尾神社

神域は松尾城跡、小河原町の氏神、御神体は京都松尾神社の御分神であるといひ、いまもって神仏習合による阿弥陀如来の座像(1尺7寸)である。口伝によれば鎌倉時代の勧請といふ。もと御地区にあった八面大明神が古記されている。

小河原観音堂

本尊は翁をさし舟に乗った珍しい如意輪観音。雨を降らす観音さんといわれる。



松尾神社



七曲城跡

築城、年代、城主とも不明

庄原神社

上深川町庄原地区の氏神。寛永18年(1641)勧請される。

友光神社

上深川町御友光地区の氏神、拝殿の柱下「あまのしゃく」は、寺院にはよくあるが、神社にあるのは大変珍しいといわれている。

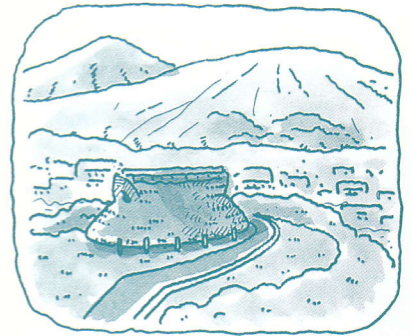
落合浜跡

小河原地区からの農産物を広島まで運び帰りは地区からの注文品を持ち帰るための船着場であった。

養老橋

三篠川

ふるさと高陽
歴史観光マップ



高陽

みんなで行こうよ。

観察メモ

発行 平成9年3月

高陽町商工会

広島市安佐北区深川115-21-21

TEL (082) 842-0186 FAX (082) 845-0939

ふるさと高陽
歴史観光マップ

高陽

みんなで行こうよ。

